

G7 広島サミットに向けたプラネタリーヘルス大学間パネル
「持続可能な地球環境のためのプラネタリーヘルス：未来を切り開く学際融合研究」
開催報告

開催概要

日時：2023 年 4 月 21 日（金）13：00～17：00

開 場：広島大学フェニックス国際センター（MIRAI CREA）・Zoom 配信

言 語：日英同時通訳

主 催：広島大学 IDEC 国際連携機構、**共催：**長崎大学/Nagasaki University

後援機関：日本医療政策機構、プラネタリーヘルスアライアンス、プラネタリーヘルスアライアンス日本支部、公益財団法人日本 WHO 協会、東広島市、フューチャー・アース、広島大学大学院先進理工系科学研究科

プログラム

- 13:00 開会挨拶 金子 慎治（広島大学 理事・副学長（グローバル化担当））
田中 純子（広島大学 理事・副学長（霞地区・教員人事・広報担当））
来賓挨拶 黒川 清（日本医療政策機構 代表理事）
- 13:20 趣旨説明 鹿嶋 小緒里（広島大学 IDEC 国際連携機構 プラネタリーヘルスイノベーションサイエンスセンター(PHIS)センター長/大学院先進理工系科学研究科・准教授）
- 13:30 基調講演
「持続可能な地球環境のためのプラネタリーヘルスの未来」
アントニ・プラセンシア（バルセロナ国際衛生研究所(ISGlobal)所長）
- 15:00 大学間パネル
モデレーター：中村 安秀（公益社団法人日本 WHO 協会・理事長）
パネリスト：
鈴木 定彦（北海道大学人獣共通感染症国際共同研究所・卓越教授）
中村 桂子（東京医科歯科大学大学院国際保健医療事業開発学分野・教授）
橋爪 真弘（東京大学大学院医学系研究科国際保健政策学・教授）
渡辺 知保（長崎大学大学院プラネタリー・ヘルス学環・教授（学環長））
藤原 章正（広島大学 IDEC 国際連携機構・教授）
- 16:45 シンポジウム宣言 中村 安秀（公益社団法人日本 WHO 協会・理事長）
- 閉会挨拶
新福 洋子（広島大学 副学長（国際広報担当））

開催報告

広島大学は、G7 広島サミット（2023 年 5 月 18-21 日、広島市開催）に向けて、日本でプラネタ



リーヘルスを牽引している 5 大学とともにプラネタリーヘルス大学間パネルを開催いたしました。シンポジウムでは、2021 年 10 月に出された「プラネタリーヘルスに関するサンパウロ宣言」で推奨されている超学際融合研究をより一層具体的に推進するため、既存の教育システムや実践研究事例を共有し、大学が地域社会で果たすべき役割について議論をいたしました。

第 1 部では、バルセロナ国際衛生研究所(ISGlobal)所長のアントニ・プラセンシア氏が「Planetary Health: an urgent global need」のタイトルで基調講演をいただきました。Lancet 誌の editorial を引用し、“No public health without planetary health（地球全体の健康なしに公衆の健康はありえない）”という強いメッセージと共に、ISGlobal のプラネタリーヘルスに関する考え・これまでの取り組みについて紹介をいただきました。また、様々に絡み合う課題を解決するためには、クエスチョン（question）や目的（objective）をまず共有設定し、様々な分野や立場の人々が共に解を出してあっていく融合研究・活動の必要性についてお話がありました。

第 2 部では、日本 WHO 協会の中村安秀先生がモデレータとして、日本でプラネタリーヘルスを実践している 5 大学からの先生方をお招きして、各大学が実践しているプラネタリーヘルス研究・教育の紹介と、さらなる学際融合研究のためには何が必要かの議論を行いました。

具体的にパネリストからは、北海道大学 鈴木定彦先生より、人獣共通感染症の発生現場におけるワンヘルスおよびプラネタリーヘルス研究・教育に関する取り組みの紹介がされました。次に東京医科歯科大学 中村桂子先生からは、プラネタリーヘルスアライアンスが提唱するプラネタリーヘルス教育のフレームワークを具体的説明されると共に、現在開講しているプラネタリーヘルスに関する大学院講義の紹介がされました。東京大学 橋爪 真弘先生からは、気候変動に関連する健康影響の最新研究、COP26 終了後の世界的取り組み、そして「気候変動に強靱な保健医療システム」の必要性が紹介されました。長崎大学 渡辺 知保先生からは、学部新入生全員を対

象としたプラネタリーヘルスカリキュラムの紹介と、博士課程生へのプラネタリーヘルス学環プログラムの紹介、そして国際的な学生プロジェクト「Planetary Health Report Card」の取り組みが紹介されました。最後に広島大学の藤原 章正先生からは、広島大学 IDEC 国際連携機構 PHIS が新たに 4 月からスタートした「ヘルシエイジング」と「プラネタリーヘルス」を融合した超学際融合研究「プラネタリーヘルシーエイジングの地域実践」研究の具体的な紹介がされました。

そして、パネルディスカッションにおいて、モデレーターの中村安秀先生、5 大学からなるパネリストの先生方に加え、ISGlobal のアントニー先生にも参加をいただき、プラネタリーヘルス学際融合研究を進めていくための「①研究」「②人材育成」「③日本の役割」について議論を行いました。

「研究」では、融合研究の障壁やその解決策について次のような議論がされました：研究者の各領域によって視点や言葉が異なる点が融合の大きな障壁になっています。これに対しては、共有する課題やクエスチョンをまず設定し、その中で様々な領域や立場の人から解を共に出してあっていく事が、この障壁を崩す重要なカギとなります。これはリサーチオリエンテッド（研究からの視点）から、地域課題オリエンテッド（地域と共にある視点）とすることの重要性が改めて強調されました。そして、これまで別々に設定されていた様々な課題は、“プラネタリーヘルス”という言葉で繋ぐことができます。これらつながりの中で、新しい取り組みがまた生み出され、それを創出していくことが新しい科学であります。

「人材育成」では、次のような議論がされました：これまで述べた研究・活動を実践するためには、若い世代の早い段階かつ自然な流れでの学際融合研究参加が必要であります。各大学においての人材育成基盤の拡充が喫緊の課題であり、さらなる教育システムの共同した構築が必要であります。

「日本の役割」では、主に世界と共有すべき事項について議論されました：日本古来の自然を崇拝する文化的背景や、里地、里山、里海等の私たちが先祖から受け継がれている自然と共存する生き方への再認識が必要です。これら活動の発掘や再認識を“プラネタリーヘルス”という言葉の下で行い、国際的に知見を共有すべきであります。この、地域社会にもある解決策は、日本に限らず、各国・各地域に存在しており、このような取り組みを国際的に相互な共有を促進する必要があります。加えて、超高齢化社会を迎えている日本から、プラネタリーヘルスと共にあるヘルシーエイジングへの取り組みを行い発信を行うこともまた、大切です。

そして、本パネルディスカッションで具体的に議論されたこれらプラネタリーヘルス実践研究と活動は、地域社会と共に歩む必要があり、大学の中にある領域が融合する学際融合の枠を超えて、地域社会とも融合した超学際融合とすべきです。また、これらすべてのアプローチにおいて、平和を希求する精神に立ち返り、再認識する必要があることが、このヒロシマという地からあらためて世界へ発信すべきメッセージであることがまとめられました。

最後に、これら議論を「広島プラネタリーヘルス宣言 2023：“大いなる転換期における平和の希求：社会と共に歩むプラネタリーヘルス科学のための教育と研究”」として提言をまとめ、中村安秀先生により宣言が出されました。本宣言文は広島市平和記念公園に届いた折り鶴で再生された紙に印刷し、パネルディスカッション参加の先生方が代表として署名いたしました。

参加者数：130 名程度 53 機関 15 カ国